

# 「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 別府 開催概要

[開催日：令和3年11月11日（木）]

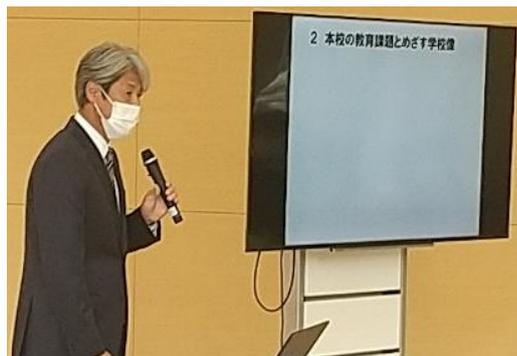
〔学校訪問〕 別府市立別府西中学校

〔訪問者〕 大分県教育委員会（岡本教育長、教育委員、教育次長 他）  
別府市教育委員会（寺岡教育長、学校教育課長 他）

## (1) 学校の概要説明

別府市立別府西中学校は山の手中学校と浜脇中学校が統合し、今年度より新築校舎でのスタートとなった学校です。学校自体が地域コミュニティの中核を担うよう、充実した施設・設備を有し、開かれた学校として様々な取組が行われています。第2期別府市教育大綱を踏まえ、「ふるさと別府を愛し、豊かな人間性と確かな学力を身につけた生徒の育成」を学校の教育目標とし、生徒たちは恵まれた環境の中で、安心して学びに向かっています。

また、人間関係づくりプログラムの充実や別府市の ICT 活用推進校として、タブレット端末の積極的な活用が行われており、日常的にタブレット端末をツールとして使いながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を進めています。



人間関係づくりと授業力向上をめざして  
(別府西中 杉原校長)

## (2) 授業参観

授業改善のテーマに「身につけた知識・技能を使って思考・判断・表現する力の向上」を掲げ、単元構想の工夫やねらいを明確にした交流活動に取り組んでいます。

当日の授業参観では、全学級でタブレット端末を活用する授業の公開がなされました。調べ学習や資料提示だけでなく、振り返り問題で学習内容の定着を図るために AI ドリルによる個別学習をしていたり、モデル図を操作して説明に活用していたりと様々な工夫がなされていました。交流活動においては、親和的な関係性のもと、学びを深めている生徒の様子が見られました。



タブレット端末を学びのツールとして活用

## (3) 意見交換会

指導者側がタブレット端末をしっかり使いこなせるからこそ生徒も授業でタブレット端末を使いこなすことができている。教科の授業の中でも、折に触れネットモラルの指導もなされていることがすばらしい。

タブレット端末の文字入力において、今後のことを見据えてフリック入力だけでなくキーボードを使っての入力を指導することも必要ではないか。

「生徒と共に創る授業」において、生徒自身が学習目標を設定する取組がなされている。この学習目標をどう使っていかを明確にすることと、目標のゴールとしての具体をどのレベルに置くのかを考えていくことが大切である。



関わり合いながら学ぶ生徒の姿や地域コミュニティとしての役割の視点から協議

[意見交換会テーマ]「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上  
学力向上に向けた組織的な取組の推進  
～「学び、育つ」ことを重視した教育へ～

[出席者] 学校訪問参加者及び別府市教育委員、市立小・中学校長（小2校、中3

意見交換会では、市全体の取組状況の説明の後、各学校長から自校の現状・課題についての説明も交えながらテーマについて意見交換を行い多数の取組を紹介いただきました。

**(1)家庭との連携について**

- ▶10年前に「家庭学習の手引き」を作成し活用してきた。学校評価の4点セットにも家庭の取組を位置づけ、取組状況についてはLINEを用いてのアンケート調査を行い、すぐに集計を行えるよう工夫している。
- ▶取組の徹底を図るためにCSを使って取組内容を伝えている。今後、もっと家庭が主体となって取り組めるようにしていきたい。
- ▶厳しい環境下にある家庭もよく協力してくれている。これを支えるためにも、学校の誠意ある対応と学校への信頼を構築していくことが大切である。そのためにも学習については、学校が責任をもってしっかりと力を付けていかねばならない。



第2 期別府市教育大綱の実現を  
(岡本県教育長)

**(2) 第2期別府市教育大綱にある「学びの姿2」の実現に向けて**

学びの姿2：ありのままの自分を認めるとともに、「人から認められているという思い」と「互いを尊重する心」を育む学び

- ▶不登校児童生徒が多いことと自己肯定感に課題があることを背景に位置づけた。まずはいいも悪いもあわせて自己を見つめることが大切。授業での話し合いの中で認め、尊重されることで自信を持ってもらいたいという思いを持っている。そうすることで集団の中でも自信を持って過ごすことができ、ひいては不登校の減少にも資することにつながると思う。
- ▶「学びの姿2」は「学校らしい学校」「自分を認めてくれる先生・友だちのいる学校」「I'm here」を実感できる学校」にするために生み出した内容である。今後は学校・家庭・地域が一体となって、中学校でも定着していくようにしていきたい。



丁寧に児童生徒に向き合い、誰一人取り残さない学校へ  
(寺岡市教育長)

**【主な意見】**

- ▶学校から家庭へ求められることは多く、保護者も疲弊している。そんな中、別府では学校が責任を持って学力を付けていこうと努力している。学びに向かう力を付けていくのは学校で、家庭は学校で頑張れるよう健康に送り出すことだと考える。
- ▶「ありのまま」を受け入れるのは大人にとっても難しい。静かに相手の声を聴きあい、お互いに受け止めてもらえた安心感から、さらに自分の思いを伝えあうといった好循環が生まれることを期待している。

**【意見交換を終えて(岡本県教育長から)】**

別府市特有の課題がある中で、現場では先生方が教育委員会と協力しながらしっかり児童生徒に力を付けていただいていることを認識できました。いただいた意見については県も課題として認識しています。児童生徒のためにも解消していきたいと思っています。国の動きもありますが、地方として今できることは何かということを経験的な観点で見たいと考えています。そのためにも市町村と意見交換を行いながら同じ方向を向いて取り組んでいけるよう努力していきたいと思っています。本日は長時間ありがとうございました。